

高度救命救急センターにおける GC/MS 法薬毒物データベースを用いた 機器分析業務の有用性の検討 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年6月26日～2025年3月31日

〔研究課題〕

高度救命救急センターにおける GC/MS 法薬毒物データベースを用いた機器分析業務の有用性の検討

〔研究目的〕

当救命救急センターにおいて行われた GC/MS 法薬毒物データベースを用いた機器分析業務結果の調査を行い、中毒機器分析の有用性を検討します。

〔研究意義〕

和歌山毒入りカレー事件などの事件を契機に、早期の中毒起因物質を明らかとし、治療を開始するためにも、機器分析が必要とされ、分析機器も配布されました。しかし、実臨床に中毒機器分析を導入した施設は少ないのが現状です。しかし、当院では2017年6月より薬剤部による中毒機器分析業務を開始、中毒起因物質の定性または半定量分析結果を提示することにより、救急医が集中治療室にて行うべき治療指針決定の補助を行っております。そこで、本研究では、自殺対策を含めた救急医療などの推進を図るため当院において行われた GC/MS 法薬毒物データベースを用いた機器分析業務結果の調査を行い、中毒機器分析の有用性を検討します。

〔対象・研究方法〕

対象患者：2016年6月1日から2019年12月31日までに当院において、急性薬物中毒、
またはその疑いと診断された入院患者様全員と致します。

研究方法：薬剤部で行われた中毒機器分析結果と個人を特定できる情報を除外した形で、診療記録からデータを抽出して解析を行います。データ項目は年齢、性別、臨床症状、治療経過、予後、常用薬です。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院薬剤部

〔個人情報の取り扱い〕

データは匿名化(個人が特定できる情報を除外)した形で登録されていますので個人が特定されることはありません。研究実施中は調査データを薬剤部内の所定の PC 内に保存します。研修終了後は倫理委員会にデータセット等を倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センターにて10年間保管の後、廃棄します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者：帝京大学医学部附属病院薬剤部 部長 安野 伸浩

研究分担者：帝京大学医学部附属病院薬剤部 副主事 今中翔一

所属：帝京大学医学部附属病院薬剤部

住所：板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211 (代表) [内線 7828]